

平成 2 1 年度間伐実施事業量

平成 22 年 8 月 3 日
第 1 回森づくり委員会
資料 1 - 3

1 . 平成 2 1 年度間伐

(単位 : ha)

区 分			H20 事業実績	H21		H21 計画面積 達成率（％）	H20-H29 累計目標値
				計画	実績		
県等実施事業	保安林事業		319	320	234	73.1	3,200
	農林公社事業		87	250	108	43.2	2,500
	森と緑税		5	150	205	136.7	5,090
	県有林事業	切置き	26	-	18	-	-
		利用	-	-	5	-	
	小 計		437	720	570	79.2	10,790
市補助対象等事業	切置き	森林区分 A B C	724	880	788	89.5	5,900
		森林区分 D					3,310
	巻枯らし	森林区分 D	5	60	3	5	2,000
	利用	森林区分 A	104	130	82	63.1	3,000
	小 計		833	1,070	873	81.6	14,210
	自 力 施 業（切置き）			6	-	34	-
合 計			1,276	1,790	1,477	82.5	25,000

(注) 森林区分 A B C D は 100 年の森づくり構想による。

○ 新税事業による間伐の割合

森と緑税	計画 150ha	実績 205ha
団地内		86.03
団地外		118.97

2 . 間伐事業の総括

市内で実施された間伐事業は総量で 1,477ha となり、前年度と比較して 201ha と 15% 以上増加したが、「森づくり基本計画」で定めた計画面積に対する達成率は 82.5% に留まった。

事業毎に検討してみると、県が実施する治山事業による間伐、農林公社が実施する間伐、市単独補助事業による巻枯らし間伐における減少が著しい。前 2 者は予算上の問題で難しい面はあるが、巻枯らし間伐の P R は強化する必要がある。

一方、本年度から始まった「森と緑づくり税」に基づく豊かな生命の森林整備事業は、県・市・森林組合の強力な推進により 205ha 実施することができた。来年度の運用基準の緩和により、大きく増加することが期待される。

平成 21 年度林業用路網整備事業

1. 事業実績

区 分	H20 整備 延長	H21 整備 延長	森づくり基本計画 における H21 目標値	達成率 (%)	(参考) H20～29 累計目標値
新規路網整備延長	17.9km	18.1km	8.0km	226	200km
林道	3.3km	2.1km	4.0km	53	40km
低コスト林道	0.0km	0.0km	0.0km	-	33km
作業道	5.5km	4.9km	2.0km	245	47km
搬出路	9.1km	11.1km	2.0km	555	80km

2. 総括

平成 21 年度の林道開設延長は 2,085m である。そのうち、市施工（県費補助事業）延長が 4 路線 966m、県施工（県代行林道事業）が 2 路線 1,119m となっている。このうち「森づくり団地計画」による路網整備として開設している林道は、下山地区の羽布下り沢 1 号支線、エス小屋 2 号支線の 2 路線 471m となっている。

作業道整備は、矢作川水源基金作業路が 5 路線、単市作業道が 3 路線、計 4,925m で、単市作業道は、「森づくり団地計画」に基づき団地施業と同時に施工されている。搬出路整備は、（財）愛知県林業振興基金搬出路 1,810m、単市補助搬出路 6,380m、自力搬出路 2,900m で、合わせて 23 路線 11,090m となっている。このうち「森づくり団地計画」に基づき施工された搬出路延長は、1,200m である。

全体では、年間路網整備目標値である 8.0km の約 2.3 倍にあたる 18.1km の整備延長となっている。これは、平成 20 年度の整備延長に比較してほぼ同倍の事業量となっているが、特に作業道・搬出路の整備延長の伸びが著しく、路網整備をともなった「森づくり団地計画」の樹立や、団地化を前提とし路網整備の先行実施がされている結果と判断する。一方、林道整備については、目標値を大きく下回る結果となっており、森林の現況、地理的条件などを把握し、費用対効果の大きい新規路線の採択を、市の林業基盤整備の観点からも検討する必要がある。

3. 今後の対応

林道の新規採択にあたっては、「地域森づくり会議」等により森林整備が明確に示された路線を優先採択することとし、地域の関係者に林道用地の承諾を始め残土処理などの施工条件の整備や、林道の性格（開設目的、費用負担、通常管理など）等に対して十分な理解を求めていくものとする。

作業道の新設においては、団地間伐施業を条件とし「森づくり団地計画」に明示されたものとする。また、その規格（幅員、道路勾配、法長など）等は、費用対効果を考慮した規模とし、安全かつ効率的な施工方法に努める。

平成 21 年度その他事業の実績

1 高性能林業機械導入事業

(単位:千円)

事業主体	導入機械	総事業費	補助金額	補助率
豊田森林組合	プロセッサ 2 台	72,000	21,600	3 / 10 (別途、国・県 より 5 / 10)
	スイングヤーダ 1 台			
	フォワーダ 2 台			

2 「森林活動の森・大洞」事業

大洞市有林(小原地区)において、森林ボランティアが間伐や自然観察などの森林活動を実施する場の提供を行う事業で、今年度 3 団体が活動した。

3 10 月「とよた森づくり月間」実施事業の報告

《啓発》

- ・ 森づくり月間 P R 品の作成(横断幕、懸垂幕、のぼり)
- ・ 豊田市産材鉛筆の作成 2,000 本(赤黒)
- ・ 広報とよた掲載(10 月 1 号)
- ・ イベントのチラシ配布(市内 47 施設)
- ・ ホームページ掲載

《イベント》

- ・ 9 月 26 日～27 日 産業フェスタ(出展)木ぼっくり工作:315 名
- ・ 10 月 1 日 初めての間伐体験会 in 勘八(主催)間伐:50 名
- ・ 10 月 4 日 上郷 GOGO フェスティバル(出展)えんぴつ作り:98 名
- ・ 10 月 10 日 わくわくワールド(出展)えんぴつ作り:88 名
- ・ 10 月 25 日 とよた森づくりの日イベント(主催・共催)302 名
- ・ 11 月 1 日 保見交流館(出展)木ぼっくり工作:52 名

4 森づくり担い手育成支援事業

緊急雇用創出対策として、森づくりの推進に要する人材を育成するため、豊田森林組合に対し、新規に養成する人材の人件費の一部(8 割)を補助した。

森づくり団地化推進要員の育成(5 名、内 2 名正規採用予定)

「緑の雇用」制度による研修生の確保支援

15 名で始めたが、年度末には 12 名となった。

5 とよた森林学校

< 講座内容と受講者数 >

講 座 区 分	講座数	開催日数	募集人員	応募総数	受講者数
人材育成コース	6 (7)	44 (56) 日	70 (90) 人	102 (97) 人	74 (83) 人
森の応援団コース	7 (9)	22 (25) 日	150 (190) 人	218 (233) 人	164 (198) 人
小 計	13 (16)	66 (81) 日	220 (280) 人	320 (330) 人	238 (281) 人
事務局自主講座	3 (5)	3 (5) 日	60 (90) 人	154 (219) 人	78 (128) 人
合 計	16 (21)	69 (86) 日	280 (370) 人	474 (549) 人	316 (409) 人
出前講座	-	50 (52) 日	-	-	1,525 (1,433) 人

()内は平成 20 年度実績